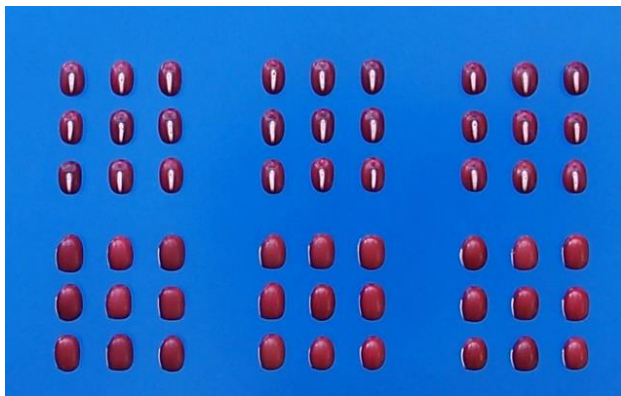


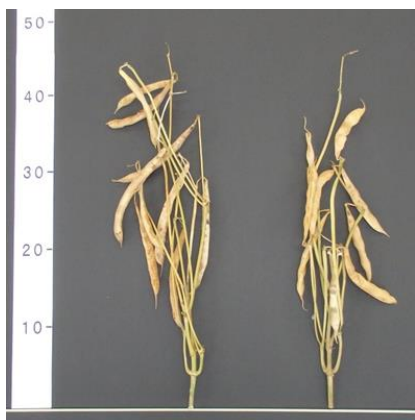
● 新 品 種

- 落葉病抵抗性を付けた「エリモショウズ」
あずき新品種「十育167号」



「十育167号」の草姿および子実
いずれも左：「エリモショウズ」、中：「十育167号」、右：「きたのおとめ」

- 国産初！ サラダやスープに適した
赤いんげんまめ「十育S3号」



「十育S3号」の草姿、子実および煮熟粒
いずれも左：「十育S3号」、右：「大正金時」

● 新 技 術

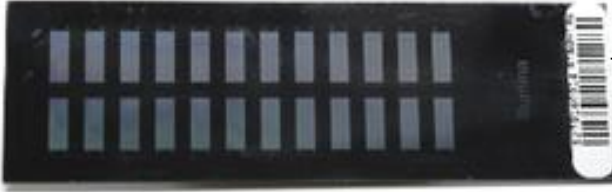
- 氷なしでもシャキッと新鮮！
ブロッコリーの低コスト流通法



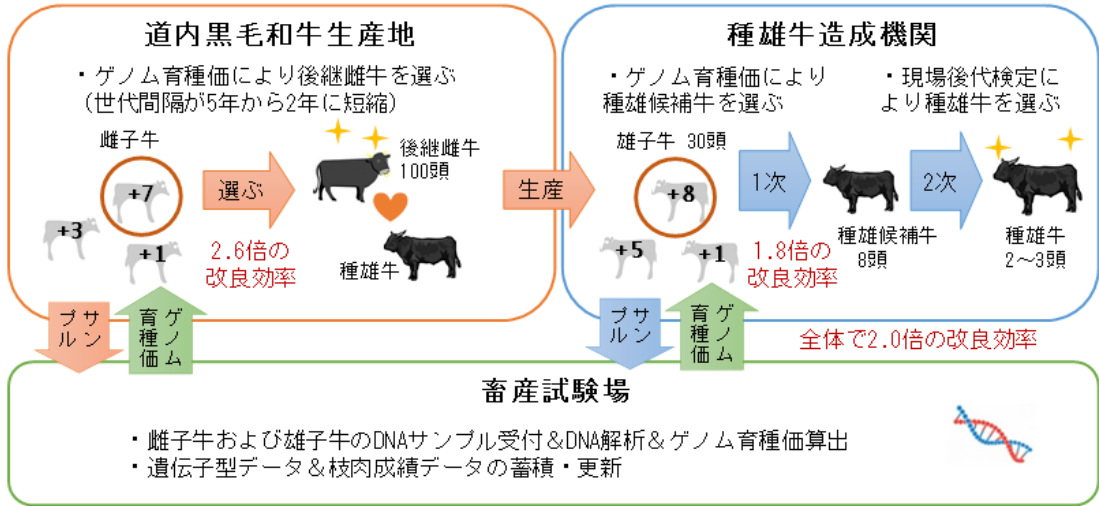
氷詰め（左）とMA包装フィルム（右）によるブロッコリーの流通形態
氷詰めでは発泡スチロール箱を使用するのに対し、MA包装では段ボール箱を使用

● 新 技 術

■ 改良スピードup！ DNAで黒毛和牛の能力予測



一度に数万箇所の遺伝子型を判定できる
DNAチップ



ゲノム育種価の活用方法

■ とうもろこし子実サイレージで濃厚飼料を自給



スナッパヘッド装着普通コンバインによる収穫



収穫されたとうもろこし子実



子実を粉碎後に密封貯蔵した
「ハイモイスターシェルド
コーン (HMSC)」

● 新 技 術

■ 収量水準と地力で決める！飼料用とうもろこしの窒素施肥

飼料用とうもろこしの施肥設計手順

① 総窒素施肥量の設定

収量水準と熟抽N量に基づき施肥対応表より求める。

② ふん尿由来の窒素肥効評価

施用するふん尿中の全窒素含量に肥料換算係数(※)を乗じて肥料換算窒素量を求める。

上記の窒素量を基肥および分施相当に配分する。

※スラリーは0.4、堆肥は春施用および秋施用で各々0.2および0.12。

③ 化学肥料窒素の施用量を決定

上記①から②を差し引き、化学肥料窒素の施用量を求め、基肥と分施に施肥配分する。

ただし、ふん尿施用時は基肥N相当量が最低4kg/10aとなるように、化学肥料窒素を補う。

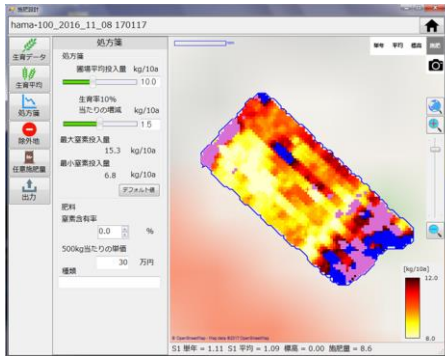


生育中の飼料用とうもろこし

適正な窒素施肥・安定生産に活用

■ 基肥にも追肥にも活用！

ITを使った可変施肥技術による収量向上



施肥マップ作成ソフトウェア画面

施肥時の画面とてんさい分施マップ施肥の様子

■ 「そらゆき」をたくさん穫るにはこうして作る！



「そらゆき」の草姿（左：7月上旬、右：収穫期）

● 現地普及活動事例

■ 新規参入者の定着が

全道一の夏秋どりいちご産地を動かす原動力に！



定植作業 (2~3月)



株養成中～花あげ (5月)



収穫作業 (6~11月)



農協の共同選果場での共選共販

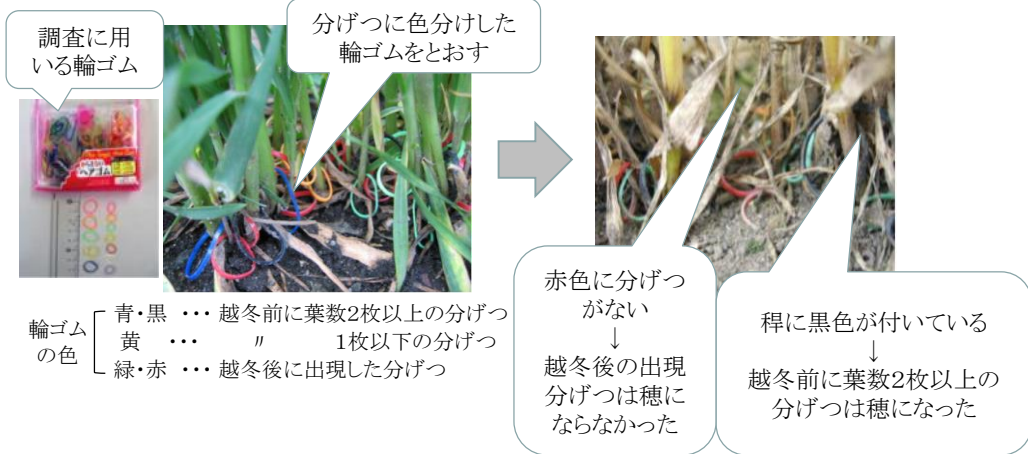


ケーキ用として出荷

浦河町・様似町における夏秋どりいちご栽培と出荷体制

- ・浦河町と様似町では全戸で「すずあかね」という品種を栽培
- ・他産地よりも早い2月に冷蔵苗の直接定植を行い、6月から11月まで収穫
- ・いちごは農協の共同選果場で共選し出荷している

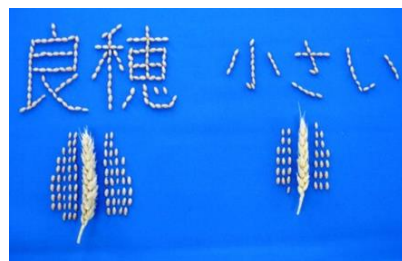
■ 北海道における秋まき小麦の安定生産に向けた取り組み ～秋まき小麦の分けつ性に関する調査・研究～



北海道における秋まき小麦の分けつ追跡調査法



越冬前の秋まき小麦の株



越冬前頑健茎には1穂粒数の多い穂ができる